滝の表現

２００４年７月７日に「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産に登録されてから、今年で１５周年を迎えます。紀伊山地は、その雄大な自然に神々が棲み、顕れる霊験あらたかな場所と古から考えられ、様々な信仰の対象となってきました。当地、紀伊山地の南部、熊野地方では「滝」がその霊域のシンボルの一つとなってきました。滝の中でも特に、１３３メートルの日本一の落差を誇る「那智の大滝」は、その荘厳さと信仰の歴史に多くの画家たちも魅了され、作品としてきています。

江戸時代中期に中国からもたらされ、日本で独自の発展をみた文人画においては、胸中を託す山水の表現が主となり、その中で滝は、聖性や高邁な精神を象徴するものとして描かれてきました。「那智の大滝」については、画家が風景から受けた実感に基づいて表現する、「真景図」の対象としても好まれ、多くの文人たちが遠くからも訪問して描いています。

明治期以降、文人画が衰退してからも、その精神を引き継ぎながら新しい水墨表現を開拓した南画家たちによって、こうした滝の表現は継承されました。

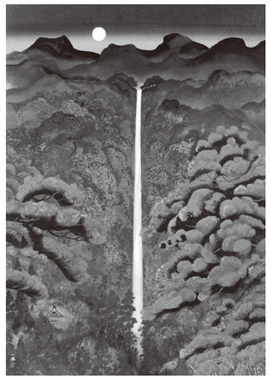
近代以降の日本画、特に戦後においては、滝もまた新たな造形表現の対象として斬新な描かれ方をするようになりますが、そこでも従来の「滝」が有してきた象徴的な意味合いは完全に切り離されることなく、連綿と表現の中に息づいています。

この夏、田辺市立美術館の本館・分館を会場にして、「那智の大滝」を中心に、「滝」の表現が日本近世以降の絵画においてどのように変遷してきたかの一側面を振り返る展覧会を開催します。会期中には、小松正史さん（昨年３月に開催した連続講座「森と芸術」に講師としてお越しいただいた作曲家、京都精華大学教授）による、『熊野古道組曲』をメインにした世界遺産登録１５周年記念コンサートも計画しています。

芸術を通して、改めて当地の歴史と自然の魅力に触れていただく機会になりましたら幸いです。

（学芸員　知野　季里穂）

野呂介石　《熊野三瀑之図》
1812(文化9)年　田辺市立美術館蔵



稗田一穂　《神瀑・那智》
1994(平成6)年　田辺市立美術館蔵

INFORMATION

世界遺産登録15周年記念展 猫かれた滝

会　　場／田辺市立美術館
観 覧 料／400円(320円)　学生及び18歳未満の方は無料
※(　)内は20名様以上の団体割引料金です。

会　　場／熊野古道なかへち美術館
観 覧 料／300円(240円)　学生及び18歳未満の方は無料
※(　)内は20名様以上の団体割引料金です。

会　　期／2019年7月6日(土)～9月23日(月･祝)
※田辺市立美術館では、一部展示替えを行います。
前期:7月6日(土)～8月18日(日)
後期:8月20日(月)～9月23日(月･祝)
開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 館 日／毎週月曜日(ただし7月15日･8月12日･9月16日は開館)
7月16日(火)･8月13日(火)･9月17日(火)

世界遺産登録15周年記念コンサート

ピアノ:小松正史(作曲家･京都精華大学教授)
8月3日(土) 午後7時開演
田辺市立美術館エントランスホール
定員80名･先着順
※7月13日(土)午前10時から
電話(田辺市立美術館:0739-24-3770)にて
予約の受付を開始します。

新収蔵作品について

昨年度は、５点の作品を購入した他、２５点の作品のご寄贈をいただいて、３０点の作品を新たに収蔵することができました。

購入した作品は、南画家、渡瀬凌雲（1904－1980）の第１５回帝国美術院展出品作《那智瀑》（1934年／240.5×120.3cm／軸装　※右の図版）、洋画家、原勝四郎（1886－1964）がフランスで描いた《風景》（1921年／18.8×25.7cm／額装）、写真家、鈴木理策（1963－　）の近年の代表的なシリーズ「水鏡」の２点《15,WM-270》、《15,WM-272》（ともに2015年／120.0×155.0cm／額装）、織作家、朝倉美津子（1950－　）の初期の秀作《エスカレーション》（1973年／228×147cm／タピスリー）です。

渡瀬と原の作品は、ともに数少ない官展の入選作と滞欧作で、画業を振り返るときに欠くことのできない貴重なものです。鈴木の作品は３年前に、朝倉の作品は昨年に開催したそれぞれの特別展に出品したもので、両作家の特に充実した作品として購入しました。

寄贈を受けた作品は、原勝四郎がフランスから帰国して間もなくに描いた《草上》（1921年／37.8×45.5cm／額装）、同じく原が最晩年まで精力的に描き続けた、バラをモチーフとする静物画の初期の優品《バラ》（1933年頃／33.3×23.9cm／額装）など原の作品５点、鈴木理策の熊野をテーマとした「海と山のあいだ」のシリーズから《14,DK-262》（2014年／119.0×95.2cm／額装）他１５点、朝倉美津子の制作を代表する「ORITATAMU」シリーズの《経過音》（2000年／190×180cm／タピスリー）と、最新の作品《躍動》（2018年／72×100cm／タピスリー　※今号の表紙に図版と作者からのご寄稿を掲載しています）など５点です。原の作品はご所蔵家２名の方から、鈴木、朝倉の作品は作家ご本人からのご恵贈でした。

渡瀬凌雲、原勝四郎は、当館が長らく調査、研究を重ねてきた画家で、今回の新たな作品収蔵もその成果の延長にあります。また、鈴木理策、朝倉美津子については、近年の展覧会活動が作品の収蔵に結びついたものです。調査と研究、展覧会といった美術館の根幹をなす活動が、コレクションの拡充につながっていることをとても嬉しく感じています。この良いサイクルを今後も維持してゆきたいと思います。

当館の活動にご理解をいただき、貴重な作品をご恵贈いただきました方々に改めて衷心よりの感謝を表します。

（学芸員　三谷　渉）

渡瀬凌雲《那智瀑》　1934(昭和9)年

REPORT　佐伯祐三と近代の洋画

昨年は、自分の命を作品に刻みつけるかのように疾走して、30歳の若さでパリに客死した洋画家、佐伯祐三（1898－1928）の生誕120年と没後90年を迎える年でした。この機会にその芸術を改めて見つめなおし、同じ時代を生きた洋画家たちの表現とともに振り返ることを意図した小企画展、「佐伯祐三と近代の洋画」を昨年の12月から今年の1月にかけて開催しました。

開催には、大阪中之島美術館、和歌山県立近代美術館の格別なご協力をいただき、それぞれの美術館が所蔵する、佐伯の美術学校在学中から最晩年までの代表的な作品をお借りして、それらを一堂に展観しました。おかげで展覧会はたいへんな盛況となり、多くのご好評の声をいただくことができました。

今回展示した、大阪中之島美術館、和歌山県立近代美術館、そして当館の所蔵する佐伯の秀作は、どれも元々は、情熱と優れた審美眼とを有するコレクターたちが収集していたものです。いずれもその後、当人から、または没後にご遺族から、美術館に寄贈されました。コレクターたちの功績や、佐伯の作品に寄せた思いと収集の経緯をお伝えすることを考えて、会期中に記念講演会を行いました（講師は筆者）。山本発次郎（大阪中之島美術館）、玉井一郎（和歌山県立近代美術館）、脇村義太郎（田辺市立美術館）のコレクションを紹介するとともに、そこからうかがえる佐伯の作品の魅力についても触れることに努めました。

講演会の翌日には、これまでの佐伯の展覧会に関わってこられた3人のゲストをお招きし、その作品の魅力について掘り下げた内容で話し合う、記念シンポジウムを開催しました。生誕100年の記念展に携わられた大阪大学の橋爪節也さん、和歌山県立近代美術館勤務時にフランスに渡って調査を行い、展覧会を開催された広島市現代美術館の寺口淳治さん、国内での制作に焦点をあてた展覧会を企画された新宿歴史博物館の守谷賢一さん、各々の視点から、佐伯の作品と生涯の軌跡を分析し、考えてこられたことを語ってくれました。聴講の方々との意見交換や質疑応答も交えて二時間あまり、とても密度の濃い内容でした。

この他に会期中に二回の展示解説会も行いましたが、どの催しにも熱心な大勢の方々が参加してくださり、今もなお佐伯祐三とその時代の洋画家たちの遺した作品の輝きが鈍ることなく、それに接する人たちを魅了し続けていることが実感されました。

（学芸員　三谷　渉）

記念講演会「佐伯祐三作品のコレクターたち」

記念シンポジウム「佐伯祐三作品の魅力」

21年目を迎えた熊野古道なかへち美術館

妹島和世さん、西沢立衛さんから開館20周年を祝したメッセージとともに贈られたラビットチェア

熊野古道なかへち美術館は、昨年開館から20周年を迎えました。1998（平成10）年に旧中辺路町立の美術館としてオープンし、2005（平成17）年の市町村合併以降は、田辺市立美術館の分館として活動を積み重ねてきています。

「熊野古道」が冠になっているように、当館の何よりの特徴は、立地している環境の歴史的、文化的な深みにあるといえます。またその景観と調和しながら、周囲に新しい息吹を感じさせているガラス張りのモダンな建築は、当館のあり方をそのままよく伝えてくれています。この設計にあたった建築家のユニット、妹島和世＋西沢立衛／SANAAが、その後世界各地の美術館建築に携わって国際的に活躍していることは、ご周知のことと思います。

昨年度、開館20周年を機会としたいくつかの事業を実施しました。一つは記念特別展の開催です。日本を代表するサウンド・アーティストの鈴木昭男さんに新作をお願いし、美術館とその周辺の環境に改めて意識を向けていただくことを意図した内容でした（今号にREPORTを掲載しています）。

もう一つの大きな事業が、上記の特別展終了後に5ヶ月間の休館をいただいて行った、改修工事です。主に展示室に関するもので、空調機を更新し、天井を張替えて、照明用の配線ダクトやピクチャーレール、監視カメラなどを新設しました。これによって、作品の保全と展示の両面から展示室の機能を一段と高めることができました（下の写真）。

昨年の開館記念日にあたる10月10日、妹島和世さんと西沢立衛さんから、お祝いのメッセージとともに、オリジナルデザインのラビットチェアが贈られてきました（左の写真）。思いがけないご好意で開館20周年に花を添えていただきました。こうした当館に寄せていただいているお気持ちを大切にしながら、4月からの21年目のスタートを心新たに切りたいと思います。「現代の織Ⅳ　草間喆雄」展から始まるリニューアル後の活動に、引き続きご注目ください。皆様のご来館をお待ちいたします。

（学芸員　三谷　渉）

新しい照明での展示にご期待ください

展覧会スケジュール

2019年度

■田辺市立美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示替のため休館	①小企画展 戦後の表現 4/20(土)～6/23(日)	展示替のため休館	②世界遺産登録15周年記念展 描かれた滝 7/6(土)～9/23(月･祝)	展示替のため休館	③館蔵品展 文人画コレクション 10/12(土)～11/24(日)	展示替のため休館	展示替のため休館	④小企画展 原勝四郎と 紀南の画家たち 12/7(土)～2020.1/19(日)	展示替のため休館	⑤特別展 岸田劉生展 ―写実から、写意へ― 2/11(土)～3/22(日)	展示替のため休館

■熊野古道なかへち美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示替のため休館	①特別展 現代の織Ⅳ 草間喆雄 4/20(土)～6/23(日)	展示替のため休館	②世界遺産登録15周年記念展 描かれた滝 7/6(土)～9/23(月･祝)	展示替のため休館	③特集展示 清高の画家 日高昌克 10/12(土)～11/24(日)	展示替のため休館	④特集展示 没後50年 鍋井克之 12/7(土)～ 2020.1/19(日)	展示替のため休館	展示替のため休館 ■ワークショップと発表 ワークショップ：2/29(土) 展　示　期　間：3/1(日)～3/8(日)	展示替のため休館